社会福祉法人 横浜市社会福祉協議会

福祉よこはま

市民活動・ボランティア活動情報誌

2013年
6月14日
No.168

港南区の永野地区地域福祉活動拠点「くじらの館」を利用する団体グループのみなさん（建物のブドウ棚の下で5月14日撮影）

特集 場がつなぐ力
港南区・永野地区地域福祉活動拠点 くじらの館 …2,3,4

目次

「福祉よこはま」は、一部共同募金配分金を活用して発行しています。

「福祉よこはま」は、横浜市が編集に協力しています。

特集

場がつなぐ力

港南区・永野地区 地域福祉活動拠点 くじらの館

もともと地域活動が活発であった永野地区では、拠点ができたことで、地域の活動者同士の顔が見える環境ができました。「地域を良くしたい」という共通の想いが、「場」の力によってつながりあう様子を取材しました。

はじまりはここから

戸建住宅の寄付からうまれた地域活動の「場」

「地域の役に立ててほしい。」1年半前、篤志の方から港南区社会福祉協議会に戸建住宅を寄付したいとの申し出がありました。区社協は住宅のある地域で活動する人たちの意見や希望を確認して申し出を受け、平成24年7月、地域の人たちの活動場所、居場所として「くじらの館」ができました。

永野地区連合町内会の役員を中心とした運営委員会が組織され、区社協との契約で管理しています。また、永野地区連合町内会・永野地区社会福祉協議会・民生委員・保健活動推進員など地域の人たちの、会議や相談に利用されています。

地域の福祉ネットワークをはじめ、福祉保健活動団体が定例会をもつなどして地域の人たちにより活用されています。また、不登校フリースペースや学習支援グループに活動場所として提供されています。

多くの人の利用を願って

拠点運営の協力者

「くじらの館」の良さを十二分に生かせるよう、ながい目で見守り、支援をしていきます。

●永野地区地域福祉活動拠点 運営委員会

ケアプラザや自治会館は子どもが自由に学んだり、遊んだりする場としては難しい。その点「くじらの館」は立地や家の状況など、良い条件が揃っています。

台所を使ったり掃除をしたりする日々の活動を通じて馴染んできました。

（運営委員会会長の福澤さん）

●地域ケアプラザ

拠点管理の手伝い、運営メンバーの一員として拠点のあり方などを一緒に考えます。

●港南区社会福祉協議会

「くじらの館」貸室窓口、運営費、消耗品費、固定資産税などの維持経費を負担。

港南区社会福祉協議会
会長　淡路さん

自然な形で"地域のひとだまり"になることが望ましい。そこから子育て支援や世代間交流に発展し、それぞれの見守りにつながればいいと思います。

（会長の淡路さん）

地域の方々がとても大事にしてくださり、「くじらの館」が地域に根付いた拠点であると感じます。

（事務局長の工藤さん）

●永野地区社会福祉協議会

～庭木剪定ボランティア～

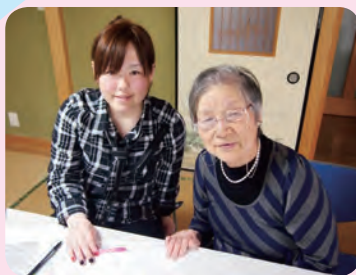
港南区・永野地区
地域福祉活動拠点

「くじらの館」を拠点として行われている活動

- 永野地区連合町内会の会議や勉強会
- 永野地区社会福祉協議会の活動（福祉ネットワークなど）

気持ちをもらって
拠点をいかして活動をひろげる

「くじらの館」の利用を通じて、様々な接点、人の交流が生まれる。その相乗効果に期待が集まります。

●学習支援グループ　トトロ

写真左から、はるなさん、岡田さん

遊び･学び･癒し･就労の機会と、伴走できる大人が子どもたちには必要。ただいまと言って子どもたちが帰ってくることができる「くじらの館」は肩肘を張らないで過ごせる場です。（ボランティアの岡田さん）

クリスマスのイベントが楽しかった。「くじらの館」で思い出が増えていくといいです。（利用者のはるなさん）

その人に合わせて楽しく勉強することを心がけています。この場所を通じて子どもたちが成長していく姿に喜びを感じます。（ボランティアの田﨑さん）

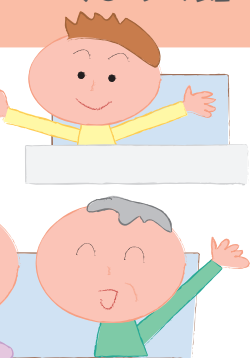
福祉ネットワーク

庭木やブドウ棚をみんなで手入れをするたびに、ここは俺たちの拠点という意識が芽生えてきました。草刈り機などの道具の置き場所にもなっていて、みんなで“くじら”と呼んでいます。（ボランティアの新井さん）

●不登校フリースペース（港南区 不登校･ひきこもり連絡会）

不登校の親の会 こだまの会

いつでも使える活動の場ができたのは大きな一歩。バックボーンを持たない弱点を抱えていましたが、拠点の確保とともに連携が加速していきました。（馬場さん）

こだまの会に入ったころからの念願だった活動場所の確保、ようやく実現しました。YOU輝の佐藤さんと出会えたのも「くじらの館」のおかげです。（吉沢さん）

こうなんYOU輝

不登校やひきこもりの子どもには、安心できる居場所で親以外の大人と接する、食事をするなどの時間が必要。「くじらの館」にはそうした場所にふさわしい空気があります。（代表の佐藤さん）

寺子屋ここ

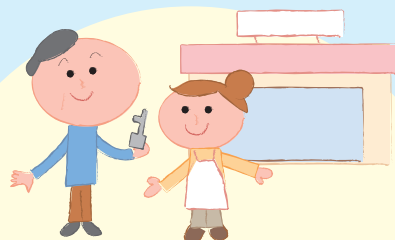
地域と港南区や横浜市、区社協とのつなぎ役になることができました。縁側のように、誰にとっても心からくつろげる場にしていきたいと思います。（平野さん）

くじらの館

•不登校フリースペース（港南区 不登校･ひきこもり連絡会）
•学習支援（学習支援グループ トトロ）•地域の会合など

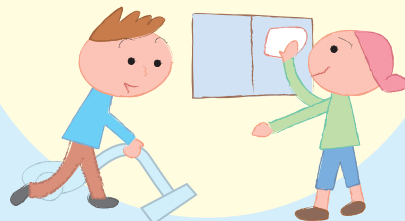
フリースペースとは･･･
詳しくは9ページ

つながりが広がるように
拠点を通じた新たなつながり

拠点の運営を理解し、様々な形で協力してくださる方々。ここからも新しい活動やつながりが広がっていきます。

近所の商店が「くじらの館」の鍵の預かりをしています。

地域でボランティア活動をしていたこともきっかけとなり、「くじらの館」を見守ってもらっています。鍵の受け渡しから新たな人間関係が期待できます。

就労支援の一環で「くじらの館」の清掃業務を委託。

若者たちに社会での居場所を提供する目的で、清掃業務をお願いしています。この仕事をきっかけに就労場所が広がることを期待します。

みらいの“くじら”
拠点に対するきもち

今後への期待

●まだまだ認知されていないが、「あそこって何かな?」と気にかけてもらいながら少しずつ広がっていけばいい。（運営委員会会長の福澤さん）

●「くじらの館」のような場所が地域にたくさんできることで、子どもに向き合う大人の数も自然に増えてくるといいです。（トトロの岡田さん）

●地域の人に気軽な待ち合わせ場所などに使ってもらい、交流ができたらいい。（庭木剪定ボランティアの新井さん）

●どの年代も交流できるような、ごちゃごちゃとした魅力がある。それぞれの世代に対しても見守りに発展するといい。（港南区社協会長の淡路さん）

●こうした場を通じての見守りやボランティア活動が増えていけばと思います（こだまの会の馬場さん）。

●港南区不登校・ひきこもり連絡会のフリースペース「ゆるーり」ののぼり旗（表紙参照）をつくりました。（ボランティアの瀧さん）

昨年7月に運用の始まった「くじらの館(やかた)」は、地下鉄上永谷駅から歩いて6分ほど。ブドウ棚のある二階建ての家です。昔、上永谷1丁目にくじら山と呼ばれる高台があったこと、永野地区の形がくじらに似ていることからこの名前になりました。

お問合せ
横浜市港南区社会福祉協議会
☎045-841-0256　FAX:045-846-4117
E メール :info@kounan-shakyo.jp
URL：http://www.kounan-shakyo.jp/

シリーズ⑰

福祉の仕事 《《《《 臨床心理士 》》》》

臨床心理士 とは？

「臨床心理士」とは、心理学にもとづく知識や技術を用いて、人間の“こころ”の問題にアプローチする“心の専門家”です。活動領域は多岐にわたり、福祉分野では児童相談所などの相談機関や施設、教育分野ではスクールカウンセラーなどさまざまな分野から期待されている職種です。

就労支援を行う、よこはま若者サポートステーション（略称サポステ）で臨床心理士として働く
津田容子 さんと相談員のみなさん **に聞きました**

●臨床心理士＝こころの相談に乗る人、ですか

サポステでの私の役割はふたつあります。キャリアコンサルタントや産業カウンセラーといった他のスタッフに、臨床心理士としてよりよい相談を行うための助言を行うこと。そして、相談員として相談に来る人と一緒に「ゴール」をめざすことです。

●「ゴール」について

働くために不安なこと、働く上で困っていることなどを本人や保護者とともに整理し、「ゴール＝目標」およびそれに向けたステップを考えます。実際に進んでいくのは本人ですが、その過程に必要な情報を提供したり、課題に直面した際には一緒に向き合ったりしています。

●サポステでの仕事に求められるものは

一番には人との関わりを楽しめること。その他、相談を行ううえでは経験や知識、人柄や感覚も重要です。

●日々努力していることは

就労支援といっても内容は多岐にわたり、ひとつとして同じ相談はありません。より多くの人によりよい相談を行うためには実践や研究を積み重ねていく必要があります。つい日々の業務に追われがちですが、検討や見直しを行うよう常に心がけてはいます。

●やりがいはそこにある…

たくさんの人と出会えること、その中でさまざまな経験・感情を共有できること。
対人の仕事という点での難しさはあるけれど、面白さも多い仕事です。

サポステの仲間に聞いた　津田さんはこんな人

相談員・キャリアコンサルタントの保坂公美子さん
サポステにいる他の臨床心理士とともに日々勉強を重ね、努力しています。スタッフからすると頼りになる、相談しやすい人柄です。

相談員・産業カウンセラーの小宮扶美江さん
相談をどう進めていくか考える上で、適切に課題を整理し、専門的な内容についてもわかりやすく説明してくれます。

相談員・キャリアコンサルタントの大塚有紀さん
津田さんは親しみやすいキャラクターです。明るくほがらかな雰囲気で、相手に合わせた言葉の選択、論理的な説明が上手。頼れる専門家です。

津田さんのある一日

9:45～　開所準備
午前、午後を通じて
○キャリアコンサルタント、産業カウンセラーといった他のスタッフに心理コンサルタント（臨床心理士としての助言）を行う
○相談者本人と相談、他のスタッフの相談に同席
その中で精神疾患・障害について扱ったり、医療機関を紹介したりすることも
○心理検査の実施
○認知行動療法プログラム（毎週水曜）の講師
○相談者本人と医療機関や福祉施設などに同行
○連携機関、施設との連絡業務
など
18:00～　閉所

よこはま若者サポートステーション

NPO法人ユースポート横濱が運営する就労支援施設（厚生労働省委託事業・横浜市協働事業）。就労を希望する15～39歳の方とその保護者を対象に、働くための相談やプログラムなどを行う。よりよい対応に向け、さまざまな資格・経験を持つスタッフが支援に携わっている。
☎045-290-7234　月～土曜10:00～18:00（休）日・祝、第三月曜ほか
http://www.youthport.jp/saposute/

横浜市内の福祉人材に関する求人情報
ウェルじゃん求人情報　http://www.yokohamashakyo.jp/willing/weljan/weljan-kyujin.html
横浜市介護人材求人情報システム　http://cgi.city.yokohama.jp/kenkou/zinzaikakuho

Let's try ボランティア

ボランティアはやってみたいけれど、実際にはどんなことをするの？できるの？　そんなギモンにこたえるLet's try ボランティア。今回は、小中学生の放課後の学習支援に取り組む、横浜国立大学学生グループ「ワダヨコ」の寺子屋活動を紹介します。理工学部4年生の坂上将之さん、教育人間科学部3年の藤原暢之さんにお話を聞きました。

坂上さん（左）と
ワダヨコ代表の曲（まがり）さん　藤原さん

活動の日時・場所は

毎週月曜日（祝日除く）の午後4時～6時。和田町商店街の一角にある多目的スペース「wit　WADA」。関係者の理解、協力のもと会場を無料で使用でき、保護者の費用負担もありません。

寺子屋が生まれたのは

和田町マネジメント協議会（和田町商店街・和田西部町内会・横浜国立大学）による街の活性化を目指した取組みとして、旧町内会館を活用した多目的スペース「wit　WADA」の改修に国大の理工学部が関わる一方、放課後学習支援の場を求めていた街の声に応え、この場を利用した学習支援の寺子屋が生まれました。当初、理工学部の学生だけでしたが、教育人間科学部の学生の力を借りて活動が充実しました。

手ごたえを感じるのは

丁寧に教えるよう心がけ、集中力や学力が上がったなあと思う瞬間です。宿題や苦手な教科のドリルなどを持ってくるルールなので、勉強したい・覚えたいという気持ちがみんな強く、特に中学生は熱心です。

メンバーにはどんな人が

寺子屋で教えることでスキルが上がるし、気分転換にもなると、多くのメンバーはボランティアの意識はないと思います。「2年生から始めた」、「バイトもしながら」といったように無理なく取り組んでいます。

大学との関係は

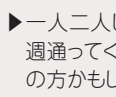
寺子屋の運営や地元イベントへの参加を通じて「地域との関わりを重視して課題解決に臨む」という大学方針に自分たちなりに応えながら活動したいと思います。今後は、広告収入を得るためのフリーペーパー発行、協賛先を探すなどして、活動資金面での自立をめざしていきたいです。

僕たちがやっています

「大学生活＝人生の夏休み」のはずが先輩に誘われてボランティアに…。いまでは自分がまず楽しむことを考えています（坂上さん）。

教育実習とは違ってたくさんの気づき、刺激が得られます。教育もボランティアも責任のある行為だと思います（藤原さん）。

▶子どもに手品を見せるので「マジックのお兄さん」と呼ばれています。学習支援を通じてまちの人たちとのかかわりが深まるといいです（理工学部2年・立川さん）。

◀友人に誘われて参加しました。自分の中では「大学生活＝勉強＋バイト」だったので、まだ手探りの状態です（理工学部2年・金子さん）。

▶一人二人しか来ない時期もあったと聞いています。毎週通ってくる子どももいます。教えられているのは自分の方かもしれません（理工学部2年・松波さん）。

◀私は「メガネ3号」という愛称をもらいました。名付け親は寺子屋に通ってくる子ども。いまのところ1号から3号までいますよ（理工学部3年・景山さん）。

◀理工学部と教育人間科学部の学生の交流・活動の場を、子どもたちからもらったようなもの。自分の将来にプラスになります（教育人間科学部1年・真辺さん）。

子どもたちに聞いた　寺子屋はココがいい！

- 学校や塾とは違い、自分のペースで勉強ができ、いつでも質問できること。
- 丁寧に教えてくれる。理解できるまで教えてくれる。

- 教えてもらうだけではなく、自分でもちゃんと勉強してこようという気持ちになる。

ワダヨコ

横浜国立大学（保土ケ谷区）理工学部、教育人間科学部の学生約30人で構成されるボランティア活動グループ。活動の様子はhttp://ameblo.jp/wadayoko2010/で

お問合せメール
wadayoko2010@gmail.com　曲（まがり）または坂上

横浜市ボランティアセンター

ボランティア活動に興味ある方はお問い合わせください。
〒231-8482 神奈川県横浜市中区桜木町1-1
横浜市健康福祉総合センタ-8F
☎：045-201-8620　FAX：045-201-1620
Mail：yvc@yokohamashakyo.jp

就労支援事業の中で自営店舗を展開！

お好み焼ころんぶす

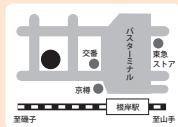
写真左から西牟田さん、藤田さん

「お客さんが美味しいと言ってくれると嬉しい」
お好み焼ころんぶす根岸駅前店に5年間勤務している西牟田さんは、仕事のやりがいについてそう語ります。

「お好み焼ころんぶす」は、不登校やひきこもりなどの、社会に馴染みにくい若者の自立を支援する(株)K2インターナショナルジャパンのフード部門として22年前に設立されました。

設立のきっかけは、社会参加に向けて相談に来た方を地域に送り出す一方で、受け皿としての働く場所を作る必要を感じたため。現在は、根岸、港南台、石川町に3店舗あり、歴代の店長は、過去に不登校やひきこもりで相談に来た経験のある方が務めています。店長だけではなく3店舗の全従業員のほぼ9割が、同じような経験のある方々です。

西牟田さんは、(株)K2インターナショナルジャパンで就労経験を積み、現在は、お好み焼ころんぶすで社員として働いています。お客さんとのコミュニケーションはまだまだ勉強中と話す一方で、美味しいものを提供することや、料理の腕前が上達していくことが実感できて、楽しく働けているとのことでした。

「お好み焼ころんぶす」
根岸駅前店
横浜市磯子区西町14-3
☎045-751-9449
詳しくはHPをご覧ください
URL:http://k2-inter.com/okonomi/tan.html

横浜市ボランティアセンター
新たなボランティアコーディネート方法について

横浜市内18区の社会福祉協議会が運営する区ボランティアセンター（以下区ボラセン）と横浜市社会福祉協議会の運営する横浜市ボランティアセンター（以下市ボラセン）はボランティア登録によるコーディネートを行ってきました。近年ボランティア活動を希望する方々がより身近な地域でボランティア登録を行う傾向が高まってきたことを受け、市ボラセンでは、平成25年度から登録制度を廃止しました。今後は情報発信を中心とするコーディネート方法へ転換します。

＊区ボラセンは引き続き、ボランティア登録によるコーディネートを行っていきます。

横浜市ボランティアセンターが行うコーディネート

①ホームページを中心とした情報提供

ボランティアに関するイベントや講座等の情報を市内から集め、ホームページ等にてボランティア活動希望者の希望に沿った情報提供を行っていきます。

▲横浜市ボランティアセンター HP

②電話や窓口、メールでのボランティア活動に関する相談対応

「こんなボランティア活動をしてみたい」「ボランティア保険や助成金のことを知りたい」「活動中にこんなことがあった」などの相談に対応していきます。

電話や窓口、メールにてご相談ください。

…そのほかにも市ボラセン入口の掲示板も更新中です。

イラスト：和泉直子

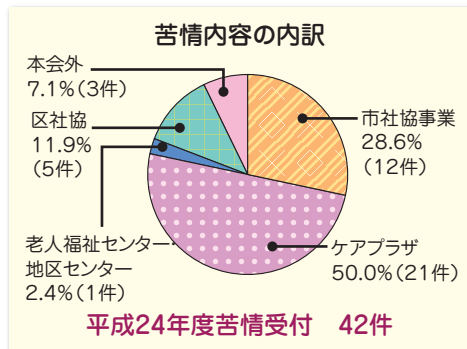
横浜市社協　苦情解決状況の報告

横浜市社協では、事業やサービスを安心してご利用いただけるように、ご意見・ご要望・苦情等をお受けする相談窓口を設けています。

年間に何度も募金や集金があるが、どのように使われているのか報告されていないのではないか。

対策　区社協では、賛助会費や日本赤十字・共同募金などの募金へのご協力をお願いしています。それぞれの趣旨やしくみ、使い道を正しく理解していただけるよう、広報紙・チラシ、ホームページのほか、地域の会議やイベントなどの機会も活用し、広報に努めています

電話番号が似ているため、デイサービス利用者から、たびたび間違い電話がかかってくる。

対策　利用者の方に電話番号を大きく表記した印刷物を配布したり、連絡帳に記載している電話番号を分かりやすくするなど、利用者が間違えないように工夫しました。

今後もみなさんのご要望に応えられるように努めてまいりますので、よろしくお願いいたします。

横浜市社協及び各区社協では、ご意見箱を設置しています。お気づきの点等をぜひお寄せください。
インターネット版　横浜市社協　ご意見箱　検索

お問合せ　**横浜市社会福祉協議会総務部**
☎045-201-2090　FAX:045-201-8385　Eメール:koe@yokohamashakyo.jp

市民後見の動向

後見爆発とは･･･　詳しくは9ページ

成年後見人

認知症や知的障害・精神障害などにより判断能力が不十分な方に対して、財産管理や福祉サービス等の契約を行う仕組みを成年後見制度と呼び、これを担うため家庭裁判所から選任された人を成年後見人と呼びます。

市民後見人

成年後見人は、親族や弁護士等の専門職が担っていますが、「後見爆発」と言われるように、認知症高齢者は平成37年度には470万人になると推計され、需要の急増が見込まれるなか、担い手不足が懸念されています。

そこで、同じ地域に暮らす市民の立場で、成年後見人としての役割を担う「市民後見人」に大きな期待が寄せられています。

横浜市における市民後見人

全国的に少子高齢化や核家族化が進み、地域で暮らす高齢者・障害者が、支援から孤立することも多くなり、「身近で頻度の高い支援」が喫緊の課題となっています。

横浜市では、平成23年度に「横浜市における市民後見人に関する検討委員会」を設置し、その中で「市民後見よこはまモデル」が提案されました。「地域で暮らし続けることを支える地域福祉の推進」を理念に、「認知症や知的障害・精神障害などがあっても、その人らしく生きていける」ように、地域の社会資源と呼ばれる多様な関係者と、連携して支援活動を展開できるような、市民後見人をイメージしています。

横浜市における市民後見人は、担い手不足を補う意味のみではなく、地域でその人らしく安心して暮らし続けることを支えて「地域福祉」を推進し、被後見人に寄り添って、きめ細かな支援を行うために、区域での養成を図っています。

なお、全国的に市民後見人の取組みが行われていますが、政令指定都市の「区域」での取組みは、横浜市が全国で初めてです。

養成状況については、「福祉よこはま」170号（12月13日発行予定）でお伝えします。

Q 「フリースペース」 って なんですか?

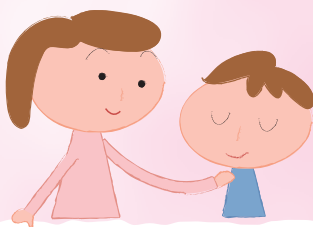
A 不登校やひきこもりなどの課題を抱える青少年が、気軽に立ち寄り安心して自由に過ごせる居場所を指します。個人宅や昼間の学習塾が利用されることもあります。利用者とのコミュニケーションを大切にして、その過程の中でどのような援助が可能か模索するための場所として、こうしたスペースが使われます。毎日をどう過ごすかは、利用者の自主性にゆだねられています。

「後見爆発」 って なんですか?

A 認知症高齢者の急増や障害者の地域生活への移行などにより、成年後見制度の利用を必要とする人が、今後飛躍的に増大すると見込まれた想定を「後見爆発」と呼んでいます。

推定される後見ニーズは人口の1%と言われ、横浜市では約3.7万人が見込まれますが、制度の利用者は約9千人と、利用が十分に進んでいないことが分かります。潜在的な利用者ニーズの掘り起こしや、制度の周知を図るとともに、ニーズの増加に対応しうる後見人の拡充が喫緊の課題となっています。

BOOK

井上雄彦／著
ヤングジャンプコミックス／発行
630円（税込）／定価

『リアル（1～12巻）』

バスケットボール仲間と過ごす時間が"自分の居場所"だった。障害によって自分の居場所が奪われたように思えた青年たちが、車椅子バスケットボールを通して自分と向き合おうとする作品。

フィクションでありながら、物語の中心となる人物が葛藤する姿やその周囲の登場人物の心の変化まで"リアル"に描かれている。

作者は「スラムダンク」や「バガボンド」の井上雄彦。

福祉って
ここがおもしろい
ここがむずかしい

更生とは、甦ること

今年は筍(たけのこ)が異常な位、早く出始めた。この時期に、筍好きな連中を集めて、筍三昧の席を催すことが恒例となっていた。二回目の席だった。筍談義が始まって、先人が言う「未出土時先有節，到凌雲處尚虚心」と竹を以って人が志を高く持つ事を外国の賓客が語った。土の中に在る時、既に節の数も決まっていて、土から出ると、一日にして三十センチも成長する。先ずはこの知識を持ち合わせていた事に感服した。同時に、『人間も生まれた時、既に寿命は決まっている』と言った師の事が思い出された。

数日後、保護司の間で、罪を犯した人の話題から更生の話に至った。人も竹の如く成長すれば素性も良く、竹を割った如くさっぱりとして問題がないのに・・・。しかし更生とは、甦るとも表現する。

人は赤子の時、誰しも無垢で育ったはずだから、もともとの姿に代えられるように見守る、その手助けも、福祉の役割だったし、又ここがむずかしい。

横浜市社会福祉協議会
更生保護部会　部会長
酒井 杲胤(こういん)

みんなのきもち ありがとう

みなさまから寄せられたご寄付は、
市内の市民活動団体、障害児・者団体の支援のため、
有効に活用させていただきます。

こんな活動に役立てられています！

よこはま ふれあい助成金<地域福祉活動計画分>

和泉中央地区社会福祉協議会

地域の中で支えあう大切さ ～できることをできる範囲で～

地域の会議で「介護保険では対応できない困りごとを抱えている方からの相談が多い」との声が上がり、その声をきっかけに地域の各団体協力のもと、平成24年9月に和泉中央地区社会福祉協議会の事業として"ふれあいヘルプ事業"はスタートしました。和泉中央地区エリアにお住まいの高齢者を対象に、ゴミだしや庭の草取りなどの依頼を受け活動しています。利用料は作業に必要な時間で設定し、その利用料は主に事業の運営費として活用されています。

利用者から大変好評で、すでにリピーターの方もいるのだとか。近所の方から聞いた、チラシを見た、和泉中央地区社協の常設サロンで相談し、利用につながったという声もあり、事業が少しずつ地域に広がっています。

活動者は仕事をしながら参加する方や定年退職したばかりの方などさまざまです。活動をきっかけに地域へ目を向けるようになった、自分の住む地域により愛着がわくようになったなど活動者にも心の変化がありました。

この事業に欠かせない存在、それはコーディネーターです。現在辛島事務局長を中心に5名でコーディネートをしています。依頼者を日頃から見守り、活動者の声に耳を傾けるなど両者を大切にした、きめ細やかなコーディネートを行っています。

事業を通じて顔の見える関係作りから日頃の交流へ、そしてそのつながりが地域全体に広がるようにと活動を続けていく和泉中央地区社協に今後も注目です。

常設サロン「いこいの家」前にて

写真左から 会長の村山さん、顧問の加山さん、副会長の笠井さん、事務局長の辛島さん、事務局次長の京増さん

詳しくお知りになりたい方、
活動に参加してみたい方は下記までご連絡ください

社会福祉法人 横浜市泉区社会福祉協議会
横浜市泉区和泉町3540　泉区福祉保健活動拠点　泉ふれあいホーム内
☎：045-802-2150　FAX：045-804-6042
URL：http://www.shakyo-iy.or.jp/

寄付者のご紹介

ご支援・ご協力ありがとうございました。順不同・敬称略
平成25年1月1日～平成25年3月31日

善意銀行　金銭寄付者
- 鉄道信号株式会社 神奈川工事所
- 鉄道信号株式会社 横浜営業所
- 横浜信用金庫 理事長 斎藤 寿臣
- 吟楽会
- 匿名（2件）

善意銀行　物品寄付者
- 株式会社 大京アステージ 横浜支店
- 木下サーカス 株式会社
- 明治安田生命保険相互会社
- 公益財団法人 みずほ教育福祉財団
- 株式会社 gloops
- 一般社団法人 本牧関連産業振興協会

よこはま あいあい基金寄付者
- コーヒーの大学院 ルミエール·ド·パリ（3件）
- 神奈川県大衆音楽協会
- ユニー株式会社 関東営業部
- 宗教法人 日本敬神崇祖自修団 横浜道場 石毛 勝彦

障害者年記念基金寄付者
- ふれあいチャリティバザー実行委員会
- 共に生きるふれあいバザー実行委員会 代表 北田 正
- 昭和大学 保健医療学部 看護学科 教職員一同
- 株式会社 大宮ゴルフコース 代表取締役 甘糟 澄子

福祉基金寄付者
- 一般社団法人 横浜市港友会 常務理事 君塚 道之助
- 横浜ブルク共同事業体
- 匿名（1件）

賛助会員のご紹介

ご支援・ご協力ありがとうございました。順不同・敬称略
平成25年2月1日～平成25年4月30日　新規受付分・継続受付分

団体会員
- 横浜クリニック友の会
- 知恵プラス 株式会社
- 仲田パートナーズ会計
- 横浜市グリーン事業協働組合
- 株式会社 大八
- 有限会社 普門

個人会員
- 青木 伸久
- 宗貞 秀紀
- 髙谷 清治
- 須藤 安三
- 丸山 多美
- 加藤 芳保
- 吾妻 久雄

賛助会員になっていただけませんか

賛助会員は、横浜市社会福祉協議会の行う様々な地域福祉推進の"サポーター"として会費による支援を行っていただいています。会員はいつでも、どなたでもなることができます。
【年会費】（個人）一口 2,000円　（団体）一口 10,000円
【お問合せ】横浜市社会福祉協議会　総務部
☎045-201-2096　FAX:045-201-8385
みなさまのご協力をお待ちしています。

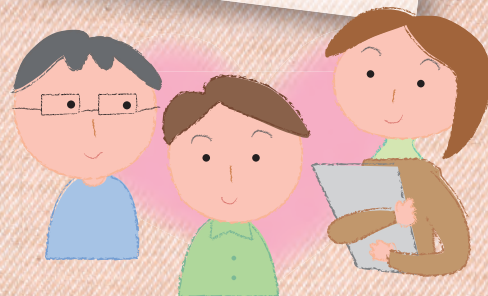
昨年から介護の仕事に就きましたが、まだ分からないこともあり、「福祉よこはま」の冊子は情報を得るのに助かっています。これからも継続して読んでいきたいです。
（中区 鈴木 彩さん）

ボランティアに行ってるケアプラザにて見つけて読んでます。（デイサービスにて手伝いしています。）ボランティアの一人としてすみずみまで読んでます。又カラーですのでとても読みやすいです。
（金沢区 中川 信子さん）

横浜市障害者後見的支援制度について、具体的にわかりました。ありがとうございました。いつもとてもためになるので、楽しみにしてます。
（神奈川区 豊口 朝子さん）

私自身、軽度の知的障害があります。いつもためになる事が書いてあって、私達のような人や困っている人に、とても助かる嬉しい物です。
（川崎市 西谷 裕美子さん）

福祉の仕事は人を育てる気がします。福祉の仕事と構えずにごく自然な形で取り組む事が出来る環境造りは時間が掛かるとは思いますが、地道な人材育成だと思います。福祉よこはまの情報発信は大きな力になると思います。ご健闘を期待しています。
（瀬谷区 古田 進さん）

福祉よこはま毎号元気をいただきながら読ませていただいてます！（特集）横浜市障害者後見的支援制度！読ませていただき大変感動しました！この様な制度、横浜から全国に少しずつでも広がってゆく事を心より願ってます。
（鶴見区 根本 勇さん）

福よこクイズ

たくさんのご応募、お待ちしています！

Q1 特集：永野地区地域福祉活動拠点の名称です。永野地区を地図で見てみるとこの動物の形に見えます。〇〇〇の館。（ひらがな3文字）

Q2 Let's try ボランティア：和田町商店街+横浜国立大学のつながりから生まれた大学生のボランティアグループ。〇〇〇〇。（カタカナ4文字）

Q3 若年無業者（いわゆるニート）や社会的ひきこもり状態にある若者の職業的自立を支援するための「よこはま若者サポートステーション」の略称〇〇〇〇。（カタカナ4文字）

前号167号の福よこクイズの答えは、Q1 サポーター Q2 落語　Q3 たすけあい　でした。多くの方にご応募いただき、どうもありがとうございました。

応募方法

はがき・FAXまたはEメールに、Q1～Q3のクイズの答え・郵便番号・住所・氏名（ふりがな）・年齢・電話番号・「福祉よこはま」の入手法と「福祉よこはま」への感想・意見等（みんなの声に掲載する場合があります）をお書きの上、下記までお送りください。抽選で20名の方にプレゼントを差し上げます。ご応募お待ちしています！

締め切り：平成25年8月15日（木）
消印（はがき）・
到着（FAX・Eメール）有効

・クイズの答え Q1～Q3
・郵便番号・住所
・氏名（ふりがな）・年齢
・電話番号
・「福祉よこはま」の入手方法
・「福祉よこはま」への感想・意見等

〒231-8482　横浜市中区桜木町1－1
横浜市社会福祉協議会「福よこクイズ」係
FAX：045-201-8385
Eメール：fukuyoko@yokohamashakyo.jp

福よこクイズがQRコードで便利に応募できます。

QR コードとは?
バーコードリーダーの機能を搭載している携帯電話で、このバーコードを撮影すると、簡単にウェブサイトにアクセスしたり、アドレスを登録できる機能です。

読み取り方
バーコードの利用法は、ご利用の機種によって異なりますが、おおむね以下のとおりです。
①バーコードに対応しているカメラ付き携帯電話で、バーコードリーダーを起動し、バーコードを撮影します。
※バーコードリーダーの起動方法は携帯電話の機種によって異なります。詳しくは、ご利用の携帯電話の取扱説明書をご確認ください。
②バーコードに含まれている情報（ウェブサイトのアドレスなど）が表示されるので、画面の指示に従います。
③メール作成の画面から必要事項を記入して送信してください。

QRコード

※応募に関わる個人情報については、当選者への発送及び福祉よこはま紙面作成の参考にのみ利用させていただきます。

編集後記
● 不登校やひきこもりの子どもたちのための「場」があり安心する一方、学校や社会で十分に受け入れられていない現状を知りました。緩やかな見守りのある「場」が身近に多くできるような取組に注目したいです。　樋口宗典

福祉よこはま
No.168
2013年6月14日
次号 No.169 2013年9月 発行予定

発　行：社会福祉法人 横浜市社会福祉協議会
〒231-8482 横浜市中区桜木町1-1
☎045-201-2090 FAX:045-201-8385
Eメール：fukuyoko@yokohamashakyo.jp
URL：http://www.yokohamashakyo.jp
デザイン：（株）オールスタッフ

広告

http://www.fukushihoken.co.jp

ふくしの保険 検索

全国180万人加入!!

ボランティア活動保険

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償

- Aプランは死亡1,200万円 入院6,500円、通院4,000円 賠償責任5億円(限度額)を補償
- 活動場所と自宅との往復途上の事故も補償
- ボランティア活動のための学習会・会議などでの事故も補償
- ボランティア自身の食中毒・熱中症・特定感染症もOK

年間保険料	基本タイプ	天災タイプ
Aプラン	300円	460円
Bプラン	450円	690円

◇天災タイプは基本タイプ+地震・噴火・津波を補償

＊各プランの補償金額、補償内容などの詳細は、専用のパンフレットをご用意しておりますので、最寄りの社協にお問い合わせください。

ボランティア行事用保険

地域福祉活動やボランティア活動の一環として行われる各種行事におけるケガや賠償責任を補償!

- 行事参加者(主催者〔個人〕を含みます。)全員のケガを補償(往復途上も含みます。)
- 行事主催者の損害賠償責任も補償

福祉サービス総合補償

ヘルパー・ケアマネジャーなどの活動中のケガや賠償責任を補償!

- 在宅福祉サービス (公的介護保険対象外サービスを含みます。)
- 地域福祉サービス
- 障害福祉サービス
- 児童福祉サービス
- 障害者地域生活支援事業 など

送迎サービス補償

送迎・移送サービス中の自動車事故などによるケガを補償!

- 送迎・移送サービス利用者を特定したAプラン
- 送迎・移送サービスのための自動車を特定したBプラン

お申込み、お問い合わせは、あなたの地域の社会福祉協議会へ

団体契約者 社会福祉法人 全国社会福祉協議会

この保険は、全国社会福祉協議会が保険会社と一括して契約を行う団体契約です。

取扱代理店 株式会社 福祉保険サービス
〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL:03(3581)4667 FAX:03(3581)4763
受付時間:平日の9:30～17:30(12/29～1/3を除きます。)
〈引受幹事保険会社〉日本興亜損害保険株式会社
TEL:03(3231)7545

〈43LC12-0163 平成25年2月作成〉